

三重の木を使おう、
森を育てるために



木をよく
知ろう

木と
もっと
親しもう

木を使おう

三重の林業

三重の森林づくり基本計画 2025



三重県

「三重の森林づくり基本計画
2025」がスタートしました！
(関連記事2ページ)

目

次

2025年7月
No. 447

バックナンバーはこちら



話題を追って	「三重の森林づくり基本計画2025」がスタートしました！ ～ 森林資源の循環利用による持続的な林業の実現に向けて ～	2
話題を追って	「みえ森林教育プログラム」を作成しました	4
話題を追って	みえ森林・林業アカデミー 第2代学長に白石則彦東京大学名誉教授が就任しました	5
話題を追って	林業で働く人々を応援します！ ～ 林業就業者の確保と人材育成の取組について ～ 公益社団法人 みえ林業総合支援機構 野々田 稔郎	6
連載	<三重大学>第31回 神社に残る古代の森 ～ 鎮守の森の樹木相から地域の植生の成り立ちを知る ～	8
頑張ってます！	優しい先輩に囲まれて、楽しく仕事しています！ 中勢森林組合 辻 宗一郎 さん	10
この人に聞く	第117回 地域おこし協力隊 坂入 亮兵 さん	11
技術情報	ウスヒラタケ選抜株の栄養成分等の含有量について ～ プナシメジ、エノキタケとの比較を中心に～	13
寄稿	長森なあな日常 ～ 最初のハードル ～ 松阪飯南森林組合 長森 祐介	15
寄稿	最近の造林の動向について ～ 造林の減少・低迷は、将来の人工林資源の危機！～ 三重県林業技術普及協会 顧問 佐々木 太	16
木材市況	木材市況（令和7年6月）	18
その他	三重の林業（令和7年5月号）を読んで ～ 読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～	18

「三重の森林づくり基本計画2025」がスタートしました！ ～ 森林資源の循環利用による持続的な林業の実現に向けて ～

三重県農林水産部森林・林業経営課

令和7年3月に三重の森林づくり基本計画を改定し、新たに「三重の森林づくり基本計画2025」としてスタートしました。

1 計画改定の趣旨

「三重の森林づくり基本計画」は、平成17年10月に制定された「三重の森林づくり条例」の規定に基づき議会の議決を経て策定される計画であり、本県の「もりづくり」についての中長期的な目標、基本となる方針、施策の方向などを定めた計画です。

平成31年3月の改定から5年以上が経過し、その間に、国においては新たな「森林・林業基本計画」が策定され、カーボンニュートラルの実現に向け、森林の適正な管理と森林資源の持続的な利用を一層推進するとともに、花粉発生源対策として花粉の少ない苗木への植替えを促進することとされました。

一方、県においては県内の人工林面積の約8割が50年生を超え、豊富な森林資源が利用期を迎えていることや、「みえ森と緑の県民税」第3期制度の開始、全国植樹祭の令和13年招致の表明など、森林・林業を取り巻く状況が大きく変化しています。

このように本県の森林・林業を取り巻く社会情勢が大きく変化していることから、これらの変化に的確に対応しつつ、長期的な視点も持ちながら三重の森林づくりを進めていくため、現状や課題をふまえた見直しを行い、新たに「三重の森林づくり基本計画2025」（以下、「基本計画2025」と言います。）として策定しました。

2 基本計画2025の施策体系と数値目標

基本計画2025は、計画期間を令和7（2025）年度から令和16（2034）年度までの10年間とし、「三重の森林づくり条例」における4つの基本理念をふまえ、引き続き4つの基本方針を定めています。また、基本方針に連なる10の基本施策を定めるとともに、10年後に目指すべき理想の姿として、新たな指標を含む12の数値目標を掲げています。（表1、表2を参照）

（表1）基本計画 2025の施策体系

	基本方針	基本施策
1	森林の多面的機能の発揮	「構造の豊かな森林」づくり
		県民の命と暮らしを守る森林づくり
		森林づくりを推進する体制の強化
2	林業の持続的発展	林業及び木材産業等の振興
		森林・林業・木材産業や地域を担う人づくり
		県産材の利用の促進
3	森林文化及び森林教育の振興	森林文化の振興
		森林教育の振興
4	森林づくりへの県民参画の推進	県民、NPO企業等の森林づくり活動の促進と意識の醸成
		木づかいの促進

（表2）基本計画 2025の数値目標

基本方針1：森林の多面的機能の発揮

指標	単位	目標値 (R16)
公益的機能増進森林整備面積	ha(累計)	22,900
再造林面積	ha	471
山地災害危険地区整備着手地区数	地区(累計)	200
森林境界明確化面積	ha(累計)	63,600

基本方針2：林業の持続的発展

指標	単位	目標値 (R16)
県産材素材生産量	千m ³	612
森林経営計画等の面積	ha	69,290
林業人材育成人数	人(累計)	1,085
製材・合板（A・B材）工場における県産材需要量	千m ³	282

基本方針3：森林文化及び森林教育の振興

指標	単位	目標値 (R16)
森林文化・自然体験施設等の利用者数	千人	1,401
森林教育に取り組む小学校数	校	230

基本方針4：森林づくりへの県民参画の推進

指標	単位	目標値 (R16)
三重の森づくり運動参加者数	人	19,000
木づかい宣言事業者数	者(累計)	120

3 重点プロジェクト

基本計画2025では、前計画と同様に、計画期間の前半5年間に於いて施策横断的かつ重点的に実施すべき取組として、「重点プロジェクト」を設定しています。

新たに設定した4つの重点プロジェクトでは、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度において、それぞれに成果指標を設けて、目標達成に向けて進捗管理を図っていきます。

（表3）重点プロジェクト一覧

重点プロジェクト名	成果指標	目標値（R11）
「新しい林業」推進プロジェクト	「新しい林業」に取り組む事業者数	34事業者
林業の担い手確保・育成プロジェクト	新たに林業に従事する多様な労働者数	300人
みえの木づかい推進プロジェクト	木づかい宣言事業者等による二酸化炭素固定量	600t-CO ₂ （累計）
みんなで取り組む三重の森づくり推進プロジェクト	三重の森づくりネットワーク会員数	100 団体

4 基本計画2025のポイント

基本計画2025における主な取組を3つのポイントにまとめると次のとおりです。

【ポイント①】主伐および主伐後の再造林の促進

- CO₂吸収機能が高く、花粉の少ない森林への転換に向けた主伐・再造林の促進
- 森林施業の収支のプラス転換に向けた伐採～保育作業の低コスト化の促進
- 成長が早く花粉の少ない苗木の生産量確保と安定供給できる体制の整備
- 既存の木材需要や新たな大型需要に対し原木を安定供給できる木材生産体制の整備
- 新規就業者確保対策に加え、異業種や外国人等の多様な労働力の確保



森林資源の循環利用とカーボンニュートラル

【ポイント②】公益的機能の発揮をめざした森林づくり

- みえ森と緑の県民税県事業による災害に強い森林づくりを着実に推進
- 森林経営管理制度に基づく公的な森林管理の促進
- 森林環境譲与税を活用した森林整備の促進に向けた県と市町の協働体制の強化
- 航空レーザ測量等のスマート技術を活用した効率的な森林境界明確化の促進



災害緩衝林整備



航空レーザ測量

【ポイント③】さまざまな主体による三重の森づくり活動

- 全国植樹祭の令和13年招致に向けた、県民の森林を育む意識の醸成や、森づくり活動の促進
- NPO、企業、教育機関、行政等の森林づくり関係者によるネットワークの構築
- 森林フェスタの開催やみえ森林教育ステーションの整備を進め、森林とふれあえる場や機会を創出



森林フェスタの開催

5 基本計画2025の実現に向けた取組

県では、基本計画2025で掲げた目標の実現に向けて、数値目標の達成状況や施策の実施状況を毎年度公表し、県民、事業者、市町の皆様と目指す姿や進捗状況を共有しながら、関係者一丸となった「三重の森林づくり」に取り組んでいきます。

[4] 三重の林業(No.447) 2025年7月

みえ森林・林業アカデミー 第2代学長に白石則彦東京大学名誉教授が就任しました

三重県林業研究所 アカデミー運営課

みえ森林・林業アカデミーは、令和7年4月より第2代学長として白石則彦東京大学名誉教授をお迎えし、新体制のもと次代の三重県林業を担い、地域振興の核となりうる人材の育成に取り組んでいきます。

1 新学長に白石則彦東京大学名誉教授が就任

みえ森林・林業アカデミーでは、平成31年より初代学長を務めていただいた太田猛彦東京大学名誉教授に代わり、令和7年4月より第2代学長として白石則彦東京大学名誉教授(写真-1)をお迎えしました。なお、太田初代学長は、名誉学長に就任いただき、引き続きアカデミーにご支援いただきます。

4月20日には、令和7年度みえ森林・林業アカデミー入講式が開催され、白石新学長から新たに入講する29名(ディレクター育成コース9名、マネージャー育成コース12名、プレーヤー育成コース8名)の受講生へ式辞をいただきました(写真-1)。また、入講式後の特別講義では「持続可能な地域林業を目指して」と題し、森林・林業の現状や特徴を踏まえて、地域林業の将来展望について解説いただきました。



写真-1. アカデミー入講式 白石新学長の式辞

・白石則彦学長の経歴

東京大学名誉教授。専門は森林計画分野。現在、神宮境内地・自然保護委員、FSCジャパン理事、FSC森林認証審査員等を務める。著書は「概説森林認証」「森林計画学入門」他。

2 太田猛彦名誉学長の就任記念特別講義の開催

5月18日、名誉学長に就任いただきました太田猛彦初代学長の就任記念特別講義が開催され、アカデミーの修了生や現役受講生のほか、みえ森林・林業アカデミー産学官連携協議会のメンバー等、会場とオンラインをあわせて64名が参加しました。

太田名誉学長は、平成31年4月のアカデミー開講から令和7年3月まで6年間にわたり学長を務められ、アカデミーの運営、PR、受講生育成などにご尽力いただきました。アカデミー講義では、最新の知見を受講生にわかりやすく伝え、正しい理解を促進するとともに、ディレクター育成コース受講生プロジェクト企画・実践においても、広い視野からの的確なアドバイスにより、受講生に多くの気づきを与えていただきました。

当日は、太田前学長のこれまでのご尽力に対して感謝状を贈呈するとともに(写真-2)、名誉学長就任記念の特別講義をいただきました。



写真-2. 太田名誉学長への感謝状の贈呈

特別講義では、「森林管理と林業－ネイチャーポジティブの時代に考える－」と題し、日本の森林・林業、森林管理についての歴史的な変遷や、地球規模での位置づけなど、太田名誉学長ならではのスケールの大きなお話とともに、カーボンニュートラルに加えて注目の高まっている生物多様性保全についても詳しく解説されました。なお、太田名誉学長には引き続きアカデミー基本コースにおいて、「森林保全・防災」のご講義をいただきます。

林業で働く人々を応援します！ ～ 林業就業者の確保と人材育成の取組について ～

公益社団法人 みえ林業総合支援機構 野々田 稔郎

(公社) みえ林業総合支援機構（以下、当機構）は、三重県から林業労働力確保支援センターの指定を受け、林業就業者の確保、人材の育成、林業事業体の支援などを目的に、各種事業を行っています。ここでは、当機構の取組の概要を昨年度の活動状況から紹介します。

1. 林業就業相談会

林業就業希望者からの相談を受け、県内の林業事業体とのマッチングが当機構の役割の一つです。このため、厚生労働省から、無料職業紹介所の認可を受け、日常的に就業相談に対応できる体制を整備するとともに、首都圏などで開催される「林業就業相談会」にブース出展を行っています。令和6年度は、10回の相談会に出展し、80名を超える方々の相談に対応しました。

相談会や事務所に問合せのあった相談者のうち、希望者には、県内事業体の見学の調整や希望条件にあった事業体とのマッチングなどのサポートを行っています。その結果、昨年度、当機構を通じて、5名の方が県内事業体へ就業していただきました。

相談対応から就業までの道のりは、必ずしも簡単ではなく、特に、転職者の場合には決断に至るまで長時間を要する方が多く、当機構職員が3年間フォローして転職に至ったケースもあります。今後も、県内の林業や事業体の状況などを丁寧に説明し、林業で働いてよかったと言ってもらえることを心掛けながら、業務に取り組んでいきたいと考えています。



就業相談会の様子

2. 林業就業前の方を対象にした研修など

前述の相談会へのブース出展のほか、林業を知っていただき、就業に繋げる様々な活動を行っています。

●高校生就業相談キャラバン

高校に出向き、林業の仕事内容や魅力などを説明し、職業選択の一つに「林業」を加えていただくことを狙いとして実施しています。

昨年度は、県立白山高校（1年生、20名）、県立久居農林高校（2年生、30名）の2校で実施しました。林業に興味を持っていただいた高校生もあり、給料、女性の比率、必要な資格などの質問がありました。



高校での説明の様子

●林業体験ツアー（半日コース）

林業に関心があり、もう少し詳しく知りたい、体験してみたいといった方を対象に、座学（三重県の森林・林業の基礎）と実習（伐採現場の見学、林業機械操作の体験など）を半日で行う研修です。



伐採方法の説明を受ける参加者

昨年度は、津市（9月7日）、松阪市（2月15日）で2回実施し、地元森林組合のご協力を得て、実際の林業作業現場での実習などを行いました。各回とも9名、計18名の参加があり、このうち6名が林業に興味を持つ高校生で、研修後に林業への興味が深まったとの発言もあり、彼らの今後に期待しています。

●林業就業支援研修（4日間コース）

林業への就業を検討している方を対象に、座学（森林・林業基礎、林業安全講習など）と実習（チェーンソー・刈払い機・林業機械の操作、植林作業体験、市場見学など）を4日間で行う研修です。この研修を通じて、林業の概要を把握し、就業を検討するうえでの判断材料の一つとしていただくことを目的としています。

昨年度は、6名の参加者があり、11月の毎土曜日に研修を実施し、希望者には就業相談を行いました。研修修了者のうち、1名が本年4月から県内林業事業体で働いていただいています。



植林作業の体験

3. 林業就業者に対する研修

「緑の雇用」事業は、林業就業者を対象とした研修事業（林野庁補助事業）で、専門的かつ高度な知識・技術・技能を有する現場技術者の育成が目的です。就業1年目～3年目までの職員を対象とするフォレストワーカー（FW）研修、就業5年以上のフォレストリーダー（FL）研修、就業10年以上のフォレストマネージャー（FM）研修などがあり、就業年数に応じて、キャリアアップできる研修の仕組みとなっています。当機構では、FW及びFLの集合研修を実施しています。

昨年度は、FW1年生～3年生24名を対象に76日間の研修、FL研修生11名を対象に16日間の集合研修を実施しました。なお、FL研修では、県が実施する「みえ森林・林業アカデミー」の講座の一部を活用させていただき実施しています。また、FW研修生の職場

実地研修（OJT）の実施状況についての確認（16事業体×3回／年）を現地等で行いました。



作業道作設実習（FW研修）の様子

4. 林業事業体を対象とした取組

認定林業事業体の経営者や雇用管理者の方々を対象に、「雇用管理研修会及び相談会」を毎年2回実施しています。社会保険労務士の方からの講演、厚生労働省、県森林・林業経営課からの情報提供などで構成され、希望する事業体は、雇用管理改善などについて、社会保険労務士の方との個別相談を受けることもできます。

令和7年度については、すでに2回の研修会は実施済みですが、地域アドバイザーである当機構職員が、各認定林業事業体を巡回訪問し、事業体の雇用管理改善に関する情報提供や相談対応を行い、必要に応じ専門家（社会保険労務士）を派遣して相談対応を行うこととしています。

5. 本年度の取組みについて

以上、当機構の主な取組みを昨年度の活動状況から報告させていただきました。なお、昨年度東京で開催したセミナーについては、本誌2025年1月号に報告済みですので、ここでは省きました。

本年度も、既に実施済みの取組もありますが、基本的に昨年度と同様の活動計画となっています。各種イベントの開催案内、活動状況などについては、当機構のホームページなどに掲載していきますので、ご興味ございましたら下記にアクセスをお願いします。

ホームページ



Facebook



Instagram



＜三重大学＞第31回 神社に残る古代の森 ～ 鎮守の森の樹木相から地域の植生の成り立ちを知る ～

三重大学教育学部 平山 大輔

街なかや郊外の各地に点々と残る神社林は、地域の植生の成り立ちや、過去にその場所に広がっていた森の姿を私たちに教えてくれる、語り部とも言える存在です。そのような神社の木々の声に耳を傾けてみましょう。

はじめに ～語り部としての神社林～

遠い昔、私たちの祖先がこの伊勢平野で稲作を始めた頃、彼ら彼女らの目の前には、どのような森が広がっていたのでしょうか。

いまでは平野部の多くは市街地や水田・畑となっていますが、当時の森の姿をしのぶことのできる場所が、街なかにも残っています。鎮守の森とも呼ばれる神社林です。

神社林には、神々の宿る神聖な場所として伐採などが禁じられてきたところが多く、そのために古からの植生がまとまった状態で残っていることが多いのです。もちろん、長い歴史のなかで人の手により植栽された樹木も多々ありますが、そのような人の営みによる変化も含め、神社林にはその地域の自然の成り立ちを知るための貴重な手がかりが残っているとと言えます。



図1. 津駅周辺の市街地に残る小丹神社の森。コジイの大木が多い。

津市には、三重県神社庁に登録されている神社が96座あります。大半は人口の多い平野部に集中していますが、山地から海岸まで、市の全域に分布しています。津市のすべての神社林の種組成を明らかにすると何が見えてくるのでしょうか。本稿では、三重

自然誌の会の植物部会の会員と共同で実施した調査の結果について紹介します。

照葉樹が残る津市の神社林

津市内の96座すべての神社林で高木層と亜高木層に出現する樹木を調べた結果、43科、99種が記録されました。最も種数が多かった分類群はブナ科で、コジイ、ウラジロガシ、アラカシなどのシイ・カシ類を中心に16種が記録されました。

神社間での共通性の高い樹種をみると、コジイ、アラカシ、タブノキ、クスノキ、クロガネモチ、サカキ、スギ、ヒノキの8種が過半数の神社林に出現することが分かりました。人為的に植栽されることの多いスギ、ヒノキを除くと、これらはすべて常緑広葉樹であり、このことは、津市域の大部分が照葉樹林帯に含まれることを反映した結果となっていると言えます。

種組成の類似度に基づく神社林の分類

クラスター分析という手法を用いることで、樹木の種類（種組成）の類似度に基づいて神社林をいくつかのグループ（クラスター）に分類できます。

分析の結果、津市の神社林は大きく4つのグループ(A～D)に分けられることが分かりました。グループAは37座、グループBは14座、グループCは21座、グループDは24座の神社林で構成されます。

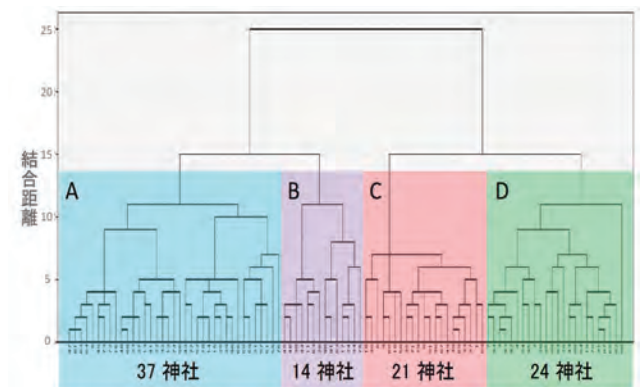


図2. クラスター分析の結果。種組成の類似度にもとづき、津市の神社林はA～Dの4グループに分けられた。ただし、グループ数は図をどのスケールで区切るかにより異なる。

各グループの特徴は次の通りです。

【グループA】 シイ型照葉樹林

このグループには全体で70種の樹木が出現し、そのうち8種(11%)が過半数の神社で確認されました。出現率(グループ内の神社数に占める当該樹種が出現する神社の割合)をみると、コジイ、アラカシ、サカキで高く(いずれも80%以上)、このグループの神社林は「シイ型照葉樹林」とみなすことができます。

【グループB】 シイ型照葉樹林

このグループも、コジイ、アラカシなどの出現率が高く、「シイ型照葉樹林」とみなすことができますが、グループAと比べると神社間の樹種の共通性が極めて高く、グループ全体で出現した53種の26%にあたる14種が過半数の神社で確認されました。

【グループC】 タブノキ型照葉樹林

グループA、Bとは大きく異なり、グループCでは過半数の神社に出現する樹木のなかにコジイがなく、かわりに、タブノキが90%の神社でみられました。このグループの神社林は「タブノキ型照葉樹林」と言えます。また、もう一つの顕著な特徴として、ムクノキ(81%)、エノキ(67%)、ケヤキ(52%)など、落葉広葉樹の高い出現率が挙げられます。

【グループD】 植栽を主とした樹林

これも他のグループとは大きく異なり、グループ全体で出現した64種のうち、過半数の神社に出現したのは、スギ(75%)、クスノキ(67%)、イチョウ(54%)、イヌマキ(54%)の4種のみでした。出現率が高いのはすべて人為的に植栽されることの多い樹種で、かつ神社間の樹種の共通性が最も低いグループでした。

タイプの異なる神社林の地理的分布とその要因

グループ分けした神社林の地理的な分布から、さらに興味深いことが見えてきます。

シイ型照葉樹林のグループAの神社林は、津市の丘陵地から平野部にかけて広域に散在しているのに対し、同じくシイ型照葉樹林のグループBは、津市の北東部の安濃平野に集中的に分布しています。同じシイ型照葉樹林でありながら、種組成が多様なグループAと共通性の高いグループBに分かれていることには、山地と海に囲まれた細長い安濃平野の地形的特徴が影響しているのかもしれません。

一方で、タブノキ型照葉樹林として分類されたグループCの神社林は、津市を流れる最大の河川である雲出川流域に集中して分布することが分かりました。このことは、シイ型照葉樹林が乾燥した平野部や丘

陵地に成立し、タブノキ型照葉樹林は湿潤な場所に成立するという、一般的な傾向と合致するものです。

また、このグループCで顕著であった、ムクノキ、エノキ、ケヤキなどの出現率の高さについては、雲出川流域の立地特性から説明できそうです。雲出川は、本流・支流ともに蛇行が激しく、古くから大雨にともなう水害が多いことが知られています。大規模な川の氾濫により、流域の神社林も攪乱を受けやすく、そのため上記の先駆的な落葉広葉樹の出現率が高くなったことが示唆されます。つまり、雲出川流域の神社林には、古くからの攪乱の歴史が刻まれているのです。

さらに、植栽を主とするグループDは、津市の南西部の山地と東部の海沿いの市街地に集中していることが分かります。昔から林業の盛んな美杉などの山地や、開発の進む伊勢湾沿いの市街地では、本来の植生の多くは残っておらず、人の営みが強く反映された神社林となっていると言えるでしょう。

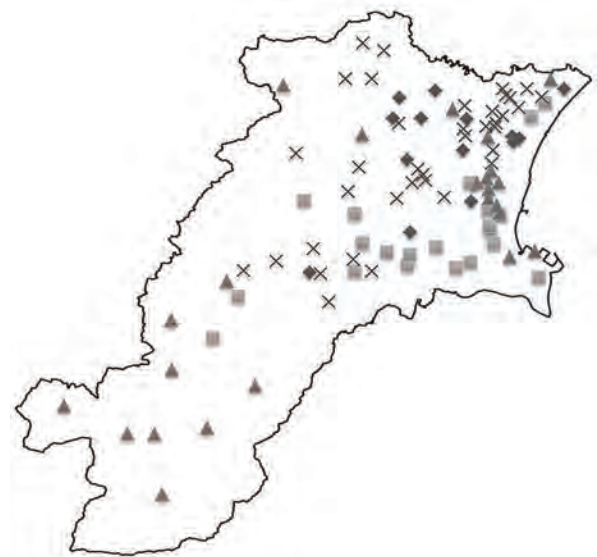


図3. 各グループの神社林の地理的分布。×はグループA(シイ型照葉樹林)、◆はグループB(シイ型照葉樹林)、■はグループC(タブノキ型照葉樹林)、▲はグループD(植栽を主とした樹林)を示す。

終わりに

ここまでみてきたように、神社林の樹木相を広域的に把握することは、地域の本来の植生、その成り立ちや変遷を知る有効な手段となり得ます。

時には、街なかや郊外に残る神社林を散策し、古代の森の雰囲気を感じたり、その移り変わりに思いを馳せたりするのもよいのではないのでしょうか。

(参考文献)

三重自然誌の会(2013) つし自然ガイドブック ～知ろう・歩こう・津市の自然～. 津市.

優しい先輩に囲まれて、楽しく仕事しています！

中勢森林組合 辻 宗一郎 さん

今回は、中勢森林組合森林整備課で働き始めて2年目の辻宗一郎さんにお話を伺いました。



2年目の辻宗一郎さん

◆「林業」との出会いから中勢森林組合就職まで

小さい頃から「森林」や「林業」にふれていた訳では全くなく、小学校高学年の時に映画「woodjob」を見て、初めて「林業」というものを知り、興味を持ったのを覚えています。

その後、他にやりたいことも出てきて、工業高校へ進学しましたが、実際に卒業後の進路を考えていく中で、「林業」への興味が再び湧いてきました。

そこで、高校2年生の時に学校の先生に相談し、津農林水産事務所の林業普及指導員の方を通じて、中勢森林組合の仕事を見学させていただきました。仕事内容や職場の雰囲気を実際に見学して、ここで働きたいと思い、採用試験を受けました。

◆実際に森林組合で働いてみて

とにかく、先輩の皆さんが優しく、楽しく仕事ができます。正直に言うと、「林業」の世界には怖い人が多くて、たくさん怒られるのではないかと不安に感じていましたが、優しく、丁寧に仕事を教えてもらっています。

現在の仕事は、下刈りや伐採作業がメインですが、人家裏の特殊伐採なども行っています。自分はまだ技術がないので、補助作業をしています。先輩が木に登って作業しているのを見ると、「カッコいいな」と思います。

◆「林業」のやりがいや楽しさ

自分の成長を感じられることに一番のやりがいを感じています。うまく目立てができたとき、狙った方向に伐倒できたときなど、成長を見てくれる先輩もいて、やりがいになっています。

また、原木市場等で丸太が並んでいるのを見ると、自分の仕事の成果が見える気がして、少し嬉しくなります。

◆「林業」の仕事は危なくない？

もちろん危険な作業が多いと思います。実際自分も、チェーンソーのマフラーに誤ってふれてしまい、火傷してしまいました。それからは特に、安全意識を高く持って作業を行っています。

◆「林業」の仕事に興味がある若者へ

正直、自分は自然が大好きな訳でもなく、虫嫌いの花粉症持ちですが、山で体を動かして、木を伐るのは楽しいです。体を動かすことが好きな人であれば、デスクワークでは得られない、やりがいや楽しさがあると思います。



伐採作業を行う辻さん

◆今後の抱負

早く林業機械に乗れるようになりたいです。今は、先輩が乗っているのを見ていることしかできないので、今後、資格を取得しながら技術を磨いていきたいです。

第117回 地域おこし協力隊 坂入 亮兵さん

聞き手：三重県尾鷲農林水産事務所 林業普及指導員 伊藤 克之

尾鷲農林水産事務所管内の尾鷲市と紀北町は、古くから林業が盛んな地域です。しかし、木材価格の低迷などが影響し、担い手不足の状況は深刻です。紀北町では、令和6年度から担い手不足解消をミッションとした地域おこし協力隊が活動を始めています。

今回は、紀北町で地域おこし協力隊として活動されている坂入亮兵さんにお話を伺いました。坂入さんが紀北町に来られた経緯や、現在の業務内容についてお話しいただきます。

Q 自己紹介をお願いします。

A 茨城県出身です。若いころはお笑い芸人を目指していましたが、その後は名古屋で営業の仕事をしていました。そこで釣りにハマリ、三重県の伊勢志摩や紀北町に来ることもありました。それがきっかけで、地域の農林水産業にかかわる仕事に興味がわき、北海道で農業関連の仕事に携わりました。北海道で数年働き、その後、地域おこし協力隊を募集していた紀北町に応募しました。



坂入さん

Q 地域おこし協力隊について教えてください。

A 地域おこし協力隊は、都市部から過疎地域に移住し、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの活動を行うものです。任期は最大3年で、自治体からの委嘱を受けています。

紀北町には、私を含め7名が在職しています。それぞれにミッションが与えられ、観光推進や移住促進等の活動をしています。

Q 普段の業務内容を教えてください。

A 紀北町では、山の仕事コーディネーターとして採用されました。普段は、森林組合おわせさんに席を置かせていただいています。森林組合さんの仕事を手伝いながら、林業インターンの募集を行っています。

Q 仕事内容について教えてください

A インターネットでのインターン募集をメインに行っています。例えば、移住体験応募サイトなどで募集を行っています。昨年度は1名の方がインターンに来られましたが、この5月にも大学生に来ていただきました。

今後は、継続的に地域に移住して働ける方をメインターゲットに据えて活動する予定です。

また、最近は兼業される方も増えています。そういった点では、雨の日の作業が少ない林業は、兼業しやすい分野でもあると考えていますので、そちらからのアプローチも視野に入れています。



林業インターン生と坂入さん



尾鷲高校合同企業説明会の様子

Q ほかの地域おこし協力隊との連携はありますか

A 紀北地域の観光を支援している地域おこし協力隊と連携して、観光ツアーに林業体験を組み込んでいただきました。具体的には、参加者が山林での植林を体験するプログラムを実施しました。参加者からは「楽しかった」「新鮮な体験ができた」という声をいただき、林業の魅力を感じてもらえたことがとても嬉しかったです。

Q YouTubeにもでていましたね

A ほんの少しだけ出ています笑。動画作成をしている地域おこし協力隊と連携して、紀北町内で働く若手林業従事者さんのお話を聞きました。林業や苗生産の様子をわかりやすく説明されていますので、ぜひ視聴してみてください。地域の魅力をもっと多くの人に知ってもらえるよう、こうした取り組みを続けていきたいと思っています。

【きほくらし 紀北町暮らしナビチャンネル】
【You tube リンク先2次元コード】↓



Q この地域の林業のよいところはなんですか。

A 紀北町は、海が近くてすぐそこに山があるという、実はとても珍しい地域です。地元の人は日常的にその景色を見ているから、意外とその魅力に気づいてい

ないかもしれません。でも、外から訪れるとその自然に心を奪われることが多いです。山と海が近いおかげで、林業もその環境を活かした取り組みができる、そんな点がこの地域の良さだと思います。

Q 今年の計画を教えてください。

A 今年は、継続して働いてくれる方を重点的に林業インターンの募集を行っていく予定です。

また、森林組合おわせの参事からの勧めもあって、みえ林業アカデミーのマネージャーコースを今年度受講しています。林業に関する知識がまだ不足していると感じているので、専門的な知識をしっかりと身につけて、地域に貢献できるようになりたいと思っています。

Q 今後の抱負を教えてください。

A 2人でも3人でも、紀北町で一緒に働いてくれる仲間を増やしていきたいと考えています。私自身、紀北町の暮らしがとても気に入っていて、自然豊かな環境が日々の生活を豊かにしてくれています。地域の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいため、地域おこし協力隊の任期が終わった後も、この町に住み続けて、地域に貢献する活動を続けていきたいと考えています。



企業の間伐体験受け入れの様子

(取材を終えて)

坂入さんの異なる分野での知識や経験が、当地域の林業に新たな風をおこしてくれることを期待しています。私も林業普及指導員として、協力しながら地域の課題に取り組んでいきたいと思っています。お忙しい中、お話を聞かせていただき、ありがとうございました。

ウスヒラタケ選抜株の栄養成分等の含有量について ～ブナシメジ、エノキタケとの比較を中心に～

三重県林業研究所 主査研究員 井上 伸

林業研究所では、昨年度から当研究所で選抜したウスヒラタケ菌株（以下、選抜株）を用いた生産現場での栽培実証試験を開始し、試験的な販売にも取り組んでいます。

三重県内でのウスヒラタケの本格的な生産・販売に向け、ウスヒラタケ選抜株の子実体がどのような特徴を持つのか明らかにするため、子実体に含まれる栄養成分等の調査を行いました。

◆はじめに

ウスヒラタケは、ヒラタケ科ヒラタケ属のきのこで、春から秋にかけて広葉樹の枯れ木等に発生します。風味がよく、味に癖がないことからどんな料理にも合わせやすいきのこです。また、比較的高温下（20℃前後）でも栽培が可能なおことから、夏場に電気代を抑えて、生産することができます。

令和5年、ウスヒラタケの全国生産量は79.3tと全国生産量が多いエノキタケ（11.7万t）やブナシメジ（11.8万t）と比較して、少ない生産量となっており、希少なきのことなっています。

総務省統計局が公表している家計調査（二人以上の世帯）品目別都道府県庁所在市及び政令指定都市ランキング（政令指定都市は都道府県庁所在市以外の政令指定都市（川崎市、相模原市、浜松市、堺市及び北九州市）、令和4年～令和6年の平均）によると、三重県の県庁所在市である津市はシメジ（ブナシメジおよびホンシメジ）とエノキタケの消費量が52市中14位と、他の地域より比較的多く消費していることが分かります。

きのこ類に含まれる一般成分やアミノ酸等は、同



写真-1. ウスヒラタケ選抜株の子実体

じ品種であっても栽培に用いる菌株や培地材料、培地組成などにより異なることが知られています。そのため、ウスヒラタケ選抜株子実体に含まれる一般成分やアミノ酸、遊離アミノ酸について調査しましたので、その結果について三重県民がよく消費する（であろう）ブナシメジやエノキタケを中心に文献値等と比較しながら紹介します。なお、本研究は令和6年度公益財団法人岡三加藤文化振興財団より助成を受け、実施しました。

◆試料について

試料には、令和6年度の栽培実証試験において協力事業者が作製したウスヒラタケ選抜株の菌床を当研究所で栽培し、得られた初回発生の子実体を用いました。分析は、（一財）食品開発分析センターSUNATECに委託しました。

◆一般成分について

一般成分の分析結果を表-1に示します。当研究所で選抜したウスヒラタケ菌株の子実体は、ブナシメジやエノキタケと比較して、たんぱく質がやや多く、炭水化物量がやや少ないことが分かりました。その他の成分については大きな違いはありませんでした。

◆アミノ酸含有量について

アミノ酸は生体内で筋肉や皮膚、酵素などのタンパク質を合成する際に必要不可欠であり、また、エネルギー源にもなる栄養素です。

表-1.ウスヒラタケ（選抜株）の一般成分

項目	単位/生100g	ウスヒラタケ （選抜株）	ブナシメジ	エノキタケ
カロリー	kcal	31	26	34
水分	g	90.6	91.1	88.6
たんぱく質	g	3.9	2.7	2.7
脂質	g	0.4	0.3	0.2
炭水化物	g	4.5	4.8	7.6
食物繊維	g	3.1	3.0	3.9
灰分	g	0.6	0.9	0.9

ウスヒラタケ（選抜株）は分析値、ブナシメジとエノキタケは文科省（2020）による。

ウスヒラタケ選抜株の子実体に含まれる総アミノ酸量は 2,900 mg/100 g でありエノキタケ (1,800 mg/100 g) やブナシメジ (1,800 mg/100 g) に比べ、約 1.6 倍多く含まれていました。ウスヒラタケ選抜株子実体の各アミノ酸の含有量は、グルタミン酸 (464 mg/100 g) が最も多く、全体の 16% を占めていました (図 -1)。次いで、アスパラギン酸 262 mg/100 g (9%)、ロイシン 229mg/100 g (8%)、アラニン 224 mg/100 g (8%) の順に多く含まれていました。ブナシメジとエノキタケの各アミノ酸量とウスヒラタケ選抜株の各アミノ酸量を比較した場合、ブナシメジのアルギニン含有量以外はウスヒラタケ選抜株の方が多いことから、ここからもウスヒラタケ選抜株のアミノ酸含有量の多さがみてとれます。

◆遊離アミノ酸含有量について

遊離アミノ酸は、食品中でタンパク質を構成しているアミノ酸ではなく、単体で食品中に含まれているアミノ酸のことで、味や風味に影響します。

分析の結果、三重県産ウスヒラタケ子実体に含まれる主要な遊離アミノ酸は、アルギニン、グルタミン酸、アスパラギン酸でした。これらウスヒラタケ選抜株に含まれる主要な遊離アミノ酸を五つの基本味 (甘味・塩味・酸味・苦味・うま味) に分類するとアルギニンは“苦味”、グルタミン酸やアスパラギン酸は“うま味”になりますが、アルギニンは“苦味”だけでなく、水産物の風味を引き出すことが知られており、調味料として水産加工食品などに使用されています。ウスヒラタケ選抜株の子実体に含まれるうま味系遊離アミノ酸量 (グルタミン酸とアスパラギン酸) をシイタケ (菌床) と比較すると、ウスヒラタケ選抜株の方が多いことが分かりました (図 -2)。

食品の美味しさは遊離アミノ酸だけでなく、核酸

関連物質などの含有量や、成分同士の交互作用、テクスチャーなどの影響が大きいため、遊離アミノ酸の量だけでは決まりません。そのため、今後は官能評価などを行い、ウスヒラタケ選抜株の優位性を示していきたいと考えています。

◆おわりに

現在、生産現場における栽培実証試験を行うとともに、これまでに確立した栽培技術をさらにブラッシュアップするため、省力的な菌床作製方法や生産性向上を目的とした発生処理方法の検討などを行っています。今後もこれらの取組を続け、きのこ生産者の収益性向上への貢献や皆様の食生活に彩りが添えられるよう努めていきます。もし、ウスヒラタケを目にする機会がありましたら、一度お試しくださいと幸いです。

参考・引用文献

- ・農林水産省 令和 5 年特用林産物統計調査
- ・文部科学省 (2020) 日本食品標準成分表 2020 年版 (第八訂)
- ・総務省統計局 家計調査 (家計収支編) 調査結果
- ・寺下隆夫ら (1990) 日本食品工業学会誌 第 37 巻 第 7 号: 528-531

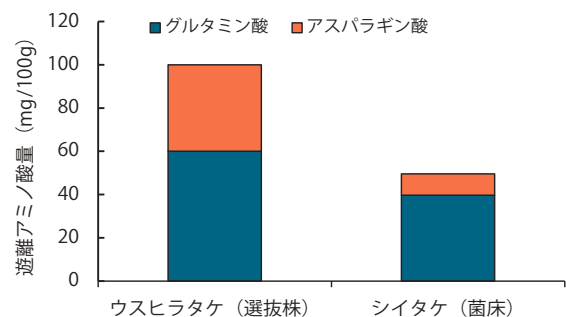


図-2. ウスヒラタケ (選抜株) とシイタケ (菌床) の子実体に含まれるうま味系遊離アミノ酸量
ウスヒラタケ (選抜株) は分析値、シイタケ (菌床) は寺下ら (1990) による。

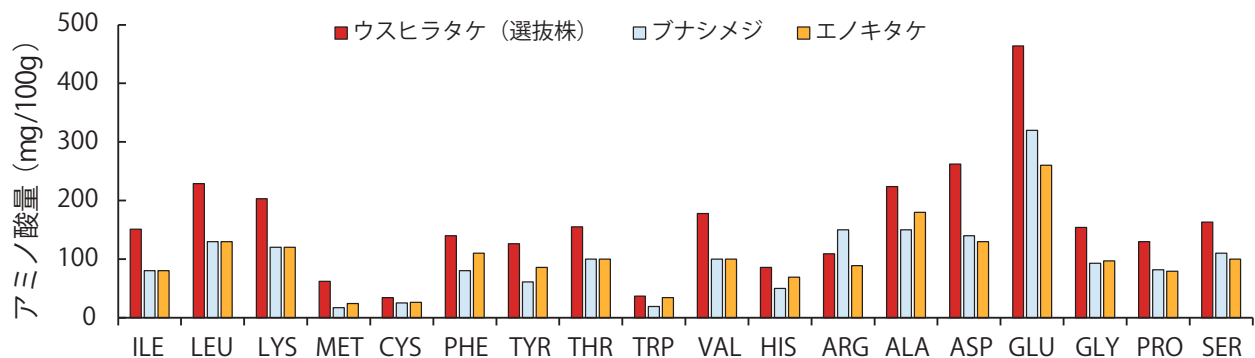


図-1. ウスヒラタケ (選抜株)、エノキタケやブナシメジの子実体に含まれる各アミノ酸量
ウスヒラタケ (選抜株) は分析値、ブナシメジ及びエノキタケは文科省 (2020) による。ILE: イソロイシン、LEU: ロイシン、LYS: リシン、MET: メチオニン、CYS: シスチン、PHE: フェニルアラニン、TYR: チロシン、THR: トレオニン、TRP: トリプトファン、VAL: バリン、HIS: ヒスチジン、ARG: アルギニン、ALA: アラニン、ASP: アスパラギン酸、GLU: グルタミン酸、GLY: グリシン、PRO: プロリン、SER: セリン。

長森なあな日常 ～最初のハードル～

松阪飯南森林組合 長森 悠介

皆さん、お久しぶりです。
誰やったっけ？と思うでしょうが、松阪市にある松阪飯南森林組合に所属しております、長森悠介という者です。

3月頃に掲載してもらったものに引き続いて、懲りずに文章を上げていこうと思います。時間や心に余裕のある方はぜひ読んでみてくださいね。

とは言うものの、前回（三重の林業3月号）で僕の思いみたいなものは洗いざらいぶちまけたことにより既にネタ切れでして。

優れた実績を上げたこともないんで、カッコいい感じで林業技術を語ることも出来ません。

さて僕にあるものなんだろう？って考えた時に思いついたのは、单身よその地域から来たと言うことと、多くの先輩方から「センスない」と言われ続けてなお反省と分析だけは続けてきたことだと思ったんで、その辺のエピソードトークとかをゆるっと話せたらな、なんて思います。

振り返ってみると、最初に必死こいて学んだものは言葉だったのかなって思います。

なんや、林業関係ないやん。って思うかもですが、移住者にとってはこれが死活問題だったりするんですよ。

僕の場合、三浦しをんさんの著作である「神去りなあな日常」の巻末取材協力の欄に松阪飯南森林組合と記載があって、その読後感のノリで見学に行ったら就職した感じだったんで、三重県に縁もゆかりも全くないですし、なんなら三重県出身の人と出会ったこともそれまでほぼありませんでした。

今でも忘れられないのが、不動産屋さんに内見するために伝える必要があった「駅部田」という地名が読めず、当てずっぽうで「えきぶた」と電話口で言った際に、一瞬の、しかしなんとも長い静寂があったことです。初見殺しもいいところな地名が印象に残って、今でもそこで部屋を借りております。

こんな感じで仕事だけでなく暮らしや文化のこともよくわからないのに加え、就職した年がコロナ元年だったこともあって街中で出歩くこともややタブーな中で、僕は職場の先輩達しか頼れるものもなかったんで生来からのお喋りパワー全開で、迷惑だったかもしれませんが休憩中とか仕事終わりとかの先輩を捕まえては会話をしてもらってました。

会話をする時に出来るだけ「どう言う意味ですか？」とは聞かないようにして、文脈である程度判断しながら会話を重ねることで、なんとなく言葉や業界用語、地域の店や地名なんかを少しずつ覚えていけたように思います。

あの時は先輩方も僕も言葉のずれやイントネーションの違いから、互いに「へっ!？」って顔を時々してたと思いますけど、なかなかない異文化交流体験を互いに出来たんで、オッケーっしょ！って今では勝手に思ってます。

ここからかなり強引にまとめにかかりますが、仕事をする大前提としてコミュニケーションが必要で、そのコミュニケーションは土地によって異なる言葉や業界用語を互いに知っていることでより円滑になっていくと思います。

移住者を受け入れる側の事業体や地域のみなさんは、受け入れた当初は聞き慣れない言葉や会話をする上での反応の悪さから会話を避けてしまう気持ちが起きてくるかもしれません。けれども少しの間辛抱してもらって、地域にはない言葉や反応をいっそ楽しむ気持ちで交流してもらいたいです。皆さんの方がホームグラウンドなんで、心理的な余裕が圧倒的にあるはずですから。

一方の移住者の方も、ゲストではなく仲間になるために言葉や地名、文化など出来る限り早く覚えてもらって、取り入れられそうなものは取り入れていき主体的に交流出来た方がいいかなって思います。他所からポンと来た以上スタートの時点で目立ってるんでね、どうせならとことん目立つ仲間になっていきましょ！

行く側も受け入れる側も双方に我慢をして尊敬し合うことで、同じ地域、他所の地域、他の国から同じ仕事をする仲間を集められたらいいのになー、と僕は楽観的に思ってます。



最近の再造林の動向について ～ 再造林の減少・低迷は、将来の人工林資源の危機! ～

三重県林業技術普及協会 顧問 佐々木 太

今、我が国は少子高齢化が進み、人口減少問題が社会的な重要課題であり、子育て支援、教育無償化等々の対策が進んでいます。

現在の森林情勢は、人口問題と同様であり、人工林の少子高齢化が進んでおり、抜本的な対策が必要ではないでしょうか？

三重県は、かつて造林面積、苗木生産量、素材生産量（ヒノキ）等全国上位の林業県であったが、今や造林をはじめ低迷しています。特に再造林の減少・低迷が、顕著であり、将来の人工林資源の危機と考え、最近の再造林の動向について分析をしたいと思います。

● 減少・低迷する再造林面積、100haを割る

再造林は、長く減少傾向を続けており、平成 25 年以降歯止めがかかりましたが、依然、低位で推移しています。

再造林面積は、昭和 30 年代には年間 3,300ha あったものが最近 5 か年（H30～R 4）の再造林面積は、487ha で今や年間 100ha を割っている状況であり、若年生人工林資源の急激な減少が課題です。（最多は昭和 36 年の 4,804ha、最少は平成 20 年の 44ha。）

● 令和に入りスギの植栽がヒノキを逆転

令和 4 年の造林面積は 110ha、再造林は 96ha、拡大造林 14ha となっています。

樹種別では、スギが 72ha、ヒノキが 28ha、クスギが 9ha、その他 1ha で、スギが全体の 65%を

占めています。

本県はヒノキの植栽が主流でありましたが令和に入りスギが逆転しています。

● 補助造林が減り、森林整備センターが主流

最近、補助造林の減少が顕著であり、令和 4 年は国庫補助造林が 35ha、県単補助造林が 2ha となっています。一方、森林整備センターによる造林が 65ha、全体の約 60%を占めています。

このことから再造林への経費負担が非常に困難になっていることがうかがえます。

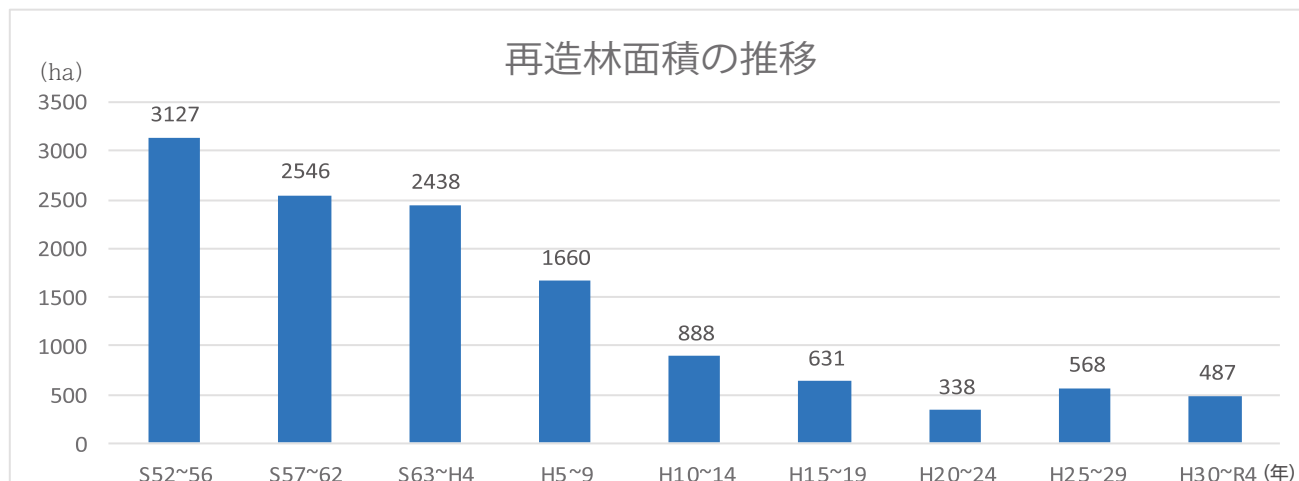
現在の森林所有者をめぐる諸情勢から今や高率補助では再造林が進まず、植栽等育林への無償化が必要と考えます。

● 3分の2の市町が再造林ゼロ！

市町の状況をみると、再造林実施市町はわずか 9 市町で、最多は熊野市で 23ha、次いで津市 19ha、大紀町 17ha、大台町 12ha、度会町 8ha、松阪市 7ha、紀北町 6ha、尾鷲市 4ha、名張市 0.1ha となっており、3分の2の市町が再造林実績なしの状況であり、四日市管内がゼロ、伊賀管内がわずか 0.1ha と将来の人工林資源を考えると危機的状況であり、全県的な取り組みが重要です。

● 造林面積は全国37位と下位に！

令和 4 年全国の民有林造林面積（林野庁統計資料）は、20,521ha で、本県は、わずか 47ha と 37 位で全国の下位に低迷しています。



ちなみに、1位は北海道(8,656ha)、2位は宮崎県(1,944ha)、3位は鹿児島県(1,025ha)、4位大分県(1,006ha) 5位熊本県(1,001ha)と上位を九州が占めています。6位以下は1千haを割っており、100ha未満の県は、18県で東海・近畿に多く、最下位は、奈良県(12ha)(昭和の時代、吉野林業・尾鷲林業と名をはせた林業県の奈良、三重等の凋落が気になります。)となっています。

● 人工林1ha当たりの国の補助金が全国低位？

平成20年以降、約15年間の造林面積(再造林・拡大造林)は、年間平均約130ha前後でこのうち国庫補助造林は、約65haで推移し、人工林の少子化が進んでおり、植栽・下刈り等の造林事業が低迷しています。

このことから、国の補助が激減し、民有林人工林1ha当たりの造林事業補助金が全国40位台と低迷しています。

● 人工林資源は超少子化? 危機的状況にあり、将来の人工林資源の枯渇を危惧？

人工林(針葉樹)の林令別面積の状況を見ると、20年生以下の面積が1,760haでわずか0.8%(全国は39万ha、3.9%)、30年生以下が6,059haと2.8%(全国は、78万ha、7.7%)と極端に少なく、超少子化であり、全国より少子化が顕著であり、将来の人工林資源の枯渇、CO₂の森林吸収量の減少が危惧され、非常事態でとなっています。(人口問題の少子化より森林の少子化のほうがより深刻で危機的状況にあります。)

また61年生以上の面積は、100,010haで46.1%(全国は、319万haで32%)を占め、高齢級化も全国よりも進んでいます。

人工林面積は、令和4年には217,877haで昭和60年から40年間で約7千ha減少しています。

(参考資料：林野庁・三重県統計資料)

● 主伐・再造林の促進に向けた提言 ～促進特定地域の指定と優遇措置～

先般、開催されました当普及協会の顧問会議の議論中で、話題になった再造林促進対策の一例を紹介します。

今、採算の取れる新しい林業を進めるために、低コスト化が重要であり、素材生産・造林事業コスト低減可能な林道、林内公道に隣接する50m以内の人工林を「主伐・再造林促進特定地域」(以下「特定地域」)に指定します。

この特定地域での主伐・再造林に対して優遇措置を講じることとします。

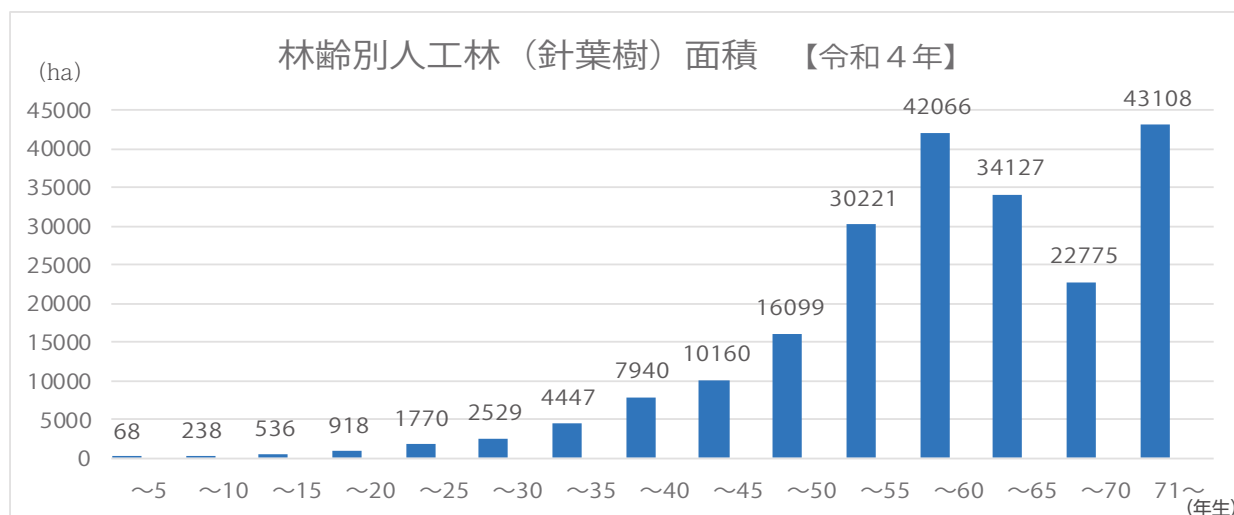
例えば、現在、造林補助率は、最高72%と聞きますが、この特定地域に指定された森林での主伐が行われた場合、森林所有者の伐採収入が、再造林、下刈り等育林事業費を下回る場合に、再造林補助率を100%の無償化に、上回る場合は一定金額以下の場合に補助率を90%にアップする対策を提言します。

再造林の減少・低迷は、将来、本県の森林資源に大きな課題を抱えています。

森林離れ、採算性悪化、資金難、担い手不足、獣害等々課題は多くあると思いますが、再造林推進は待ったなしで緊急事態宣言が必要ではないでしょうか？

県は、花粉対策と合わせ再造林緊急対策チームを立ち上げ、官民挙げての総合的な再造林推進対策(「子育て支援」同様に手厚い「木育て支援」)が急務であると考えます。

なお、国会では、森林法等改正の審議の中、全国ベースで約4割と低調な再造林率の引上げ等が重要課題として議論されました。



地域	区分	樹種	長さ	径	品質	平均価格	高値	前回比	市況
松阪	素材	スギ	3m	16～18cm	並	15,000	16,000	↑	(供給動向、価格概況、先行き等) 【素材】 ・旬の悪い時期という事もあり、山からの出材量は少なめ。 ・単価は前月までと変わらず引き合いはある状況。
			4m	20～22cm	並	14,000	15,000	↓	
			4m	24～28cm	並	14,000	15,000	↓	
			6m	18～20cm	並	18,000	18,000	→	
		ヒノキ	3m	16～18cm	並	22,000	22,000	→	
			4m	20～22cm	並	20,000	22,000	↓	
			4m	24cm以上	並	20,000	22,000	↓	
			6m	18～20cm	並	30,000	30,000	↑	
	製品	スギ	3m	10.5×10.5cm	特一	80,000	90,000	→	【製品】 ・杵材中心に売ってはいるものの情勢は厳しそう。
		ヒノキ	3m	10.5×10.5cm	特一	90,000	100,000	→	

※価格は消費税抜きとし単位は円／m³。積込料、取扱手数料は含まない。製品はいずれもKD材。 前回比は4月の市況との比較。

三重の林業(令和7年5月号)を読んで
～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～

(令和7年度 森林・林業関係主要事業の概要)

・森林・担い手とも高齢化が進んでおり、これを踏まえた政策の展開を期待します。

(林道「木屋村山線」が開通しました)

・全線開通したことで、森林資源の有効活用や森林の公益的機能の向上に期待します。
・道は何かをしようとする際の基盤となるので、しっかり管理して欲しい。

(スマート林業研修会を開催しました！)

・機器の使用や演習ができるのは良いと思った。
・各システムの内容や研修生の反応等、内容の詳細をもっと知りたいと思った。

(森づくり宣言書調印式を開催しました)

・企業が地域の森林整備に積極的に関わることで、地域の課題の解決につながることを期待される。

(みえ森林経営管理支援センターの取組)

・市町村の譲与税活用について、センターが連携していることを知ることができてよかった。
・「集積計画」が「森林整備」実施面積の約4割にとどまっており、集積計画の作成を阻む事情があるのですか。

(紙のリサイクルの流れを辿る)

・紙のリサイクル率の高さを知って嬉しくなった。
・リサイクルの大切さを改めて実感した。日常生活の中でリサイクルを意識して行動していきたい。
・再利用の取組みが増えれば良いと思った。

(林業に転職してみte感じたこと)

・「自分の性格を理解したうえで先輩のアドバイスを受け入れることが大事」という姿勢が素晴らしい。
・林業に就職を考えている人たちに是非読んでもらいたい内容で分かりやすい体験談でした。

(自伐林家 関田 昇さん)

・将来孫達が山に来れるよう、道作りや人材育成に取り組んでいる姿から山への思いが伝わってきた。
・素材生産や山づくりがお好きな様子が伝わってきた。

(立木を利用した獣害防護柵)

・通常の獣害防護柵と比較した管理の負担や、支柱となった立木は被害にあわないのか気になった。
・留意事項を明らかにして広く普及して欲しい。
・シカも林業家も困らないで生きていける未来のため、今後の研究に期待。

※いただいた感想、コメントを事務局で集約し掲載しています。



森林はさまざまな公益的機能を持っています。

三重県森林協会は、豊かで災害に強い森林づくりを目指して活動しています。

治山・林道等の森林土木関係の標識板等の注文にも応じています。
お気軽にご相談ください。

一般社団法人 三重県森林協会
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

台風・山火事などの災害による森林の損害に備え、森林保険にご加入ください





「加入してよかった！」

お問合せ・お申込みは、お近くの森林組合または三重県森林組合連合会まで

守ろう地球と地域の環境 ー緑と水を育む水源林づくりー

私たちは森林整備センターによる
水源林造成事業を進めています。

三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104(林業会館内)
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

森林づくりの(わ)を広め、健全な森を次の世代へ



植える 緑化から 使う 緑化へ

みんなの思いを、緑の募金でつなぎましょう

公益社団法人 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地
TEL (059) 224-9100 FAX (059) 224-9118

緑の募金ー三重緑化基金

林業用苗木の生産・販売

ー緑資源は優良苗木でー

三重県林業種苗協同組合連合会

会長 辻 和彦

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-7387



地元で育まれた品質の確かな

「三重の木」認証材で家を建てよう!

「三重の木」利用推進協議会

TEL.059-228-4715 <http://www.mienoki.net/>

三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 落合 賢治

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-4715

みえ森づくりサポートセンター

「みえ森づくりサポートセンター」は、みなさんの森林教育、
森づくり活動の支援を行う施設です。ご活用ください。

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内
TEL 059-261-1223 FAX 059-261-4153
mail miemori@zc.ztv.ne.jp web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori>
(三重県が公益社団法人 三重県緑化推進協会に委託し運営しています。)



「林業就業希望者の相談対応」、「林業人材育成研修」、「林業経営体支援」など
林業に関する総合的なサポートを行います!

林業を支える人々を応援します、

森林を未来へ繋げるために



公益社団法人

みえ林業総合支援機構

津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所交流館内
Tel: 059-261-1398 HP: <http://miekikou.jp>

インテリアからエクステリア等 **木製品** **伐採 チェンソー・草刈機**

お任せください!

中勢森林組合 **見積無料!!** 三重県津市白山町南家城 915-1
TEL 059-262-3020 <http://www.chusei-forest.jp> **STIHL Shop**
TEL 059-264-1070

森林・木材販売に関することならなんでもご相談下さい!

間伐作業 高枝切作業 菌床きのこ生産 液体ガラス改質木材 家具製作販売 足場・支柱 製造販売

JForest 松阪飯南森林組合
【本所】〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見 5725-3
TEL.0598-32-3516 FAX.0598-32-3545
◆各支所所在地についてはHPをご覧ください <https://mi-sinrin.or.jp>

三重で木のこと

OKO 株式会社 オオコチ

三重のサステナブル経営アワード受賞 みえの木建築コンクール優秀賞受賞 JAS 認証工場 三重の木認証工場

三重県松阪市大黒田町 472 TEL : 0598-26-1551 FAX : 0598-21-2676 E-mail : info@ookochi.co.jp HP : <https://www.ookochi.co.jp>

熊野の森から、やさしさをあなたへ

株式会社 nojimoku
〒519-4324 三重県熊野市井戸町 4185-18
TEL : 0597-85-2485 FAX : 0597-85-4056
HP : <http://nojimoku.jp>

のじもくま

航空レーザ計測技術を活用した ICT 林業を推進

<http://www.ajiko.co.jp/>

アジア航測株式会社
三重営業所
三重県四日市市安島一丁目5番10号
KOSCO四日市西浦ビル
TEL : 059-342-0501 FAX : 059-342-0503
森林環境課・森林情報課
神奈川県川崎市麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル

持続的な林業経営を目指して

三重県林業経営者協会

会長 速水 亨

度会郡大紀町滝原870-34 ひのき家内

注文住宅 太陽光 × 制震装置 × デザイン × コストパフォーマンス

完全自由設計の家づくり

oh!! one house. 0120-02-1936
[営業時間] 9:00 ~ 18:00 [定休日] 水曜日
HP Instagram YouTube